

「未来の被災地」。最近頭から離れない言葉です。それは南海トラフ地震の被害を受ける可能性が高い首都圏や太平洋側の沿岸部全てです。大地震が起きたら、津波が来たら、どのように避難し当面の危機を回避するか。避難所でのように暮らすのか。復旧・復興の地域づくりをどのように進めるか。心災にどのように対処するか。

三十、三十一日にNPO法人JKSK(女子教育奨励会)では「第七回車座交流会」を仙台で開催いたします。東日本大震災から四年目の春を迎え、これまでの三年間、

東北復興日記



NPO法人JKSK
理事
大和田順子さん

91

学んで備える 未来の震災

岩手、宮城、福島で復興の地域づくりにまい進されてきた皆さんに学び、

未来の震災に備えること

もに、東北の美しい未来

づくりをさらに加速させるための手法や具体策を

議論します。

初日は仙台市内の津波被災地域を訪問し、南蒲

生地区の女性たちとの交流、蒲生干潟の生態系回

復状況の視察を行います。晩は松島の宿でこ

までの三年間の

取り組み・直面

する課題・今後の

展望について

各地からの報告

を。二日目は東

松島市内の沿岸

部で農業・地域の

再生に取り組

む「よつばファ

ーム」、海苔の

加工・直売所「のり工房

矢本」等を訪問。午後

に仙台に戻り、防災ワ

ーク ショップ体験と車座

ワーク ショップが夕方まで行

われます。

宮城からは共催者の仙

台市、せんだい男女共同

参画財団の関係者や「東

北の美しい未来創造塾」

の受講生、写真、東松島

の方々。福島からいわ

きでオーガニックコット

ン栽培や事業化に取り組

んでいる「いわきおてん

とSUN」のメンバー

や、南相馬からコミュニ

ティーの再生や被災地ガ

イドツアーを行っている

方々が。岩手発「東北食

べる通信」の編集長や生

産者、その他石巻、大

崎、そして首都圏などか

ら参集します。

復興を推進してきた東

北と首都圏の女性や若者

が集い、これからの持続

可能な地域づくりについ

てビジョンと具体的なプ

ロセスを語り合います。

二日だけのご参加も可

能です。問い合わせはJ

KSKまで。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

